

令和五年四月五日（水）、東京都大田区の池上本門寺〔朗嶺会館〕に於いて「第三十四回花と緑の吟行会」が行なわれました。選句結果は以下の通りです。

## 大会賞

相輪に天女のごとき落花かな

渡邊 文雄

一山の桜に鳥語あふれしめ

青木百々子

## 井越 芳子選

### 特選

相輪に天女のごとき落花かな

渡邊 文雄

日蓮様にいただく今日の花疲

杉本 光祥

行くところ見ゆるところの花吹雪

尾形 香苗

### 入選

しづけさは花にはじまる女坂

森宮 保子

花びらのひかりを撒きて大伽藍

小池とも子

石段に踏まねばならぬ花の塵

清水 和代

鎖されきし扉の開くやどつと春

根本 仁

花ひとひら合掌を解く手に止まり

古谷由紀子

勤行の声高らかに木の芽時

鈴木 美枝

ひかりつつ光の中をちるさくら

清水ゆみ子

日蓮の光陰いかに花ふぶく

小川田鶴子

日輪は雲の中なる桜かな

入部 美樹

百段を上りて桜の人となり

石原 杏

奥つ城の石の間埋むる花の塵

干場 紫葉

まだ散らぬ花を誘ふ落下かな

桜 かれん

飛花落花空に孕みし僧の経

舘野 邦栄

踝を舞ふ花びらの遅速かな

大石香代子

陀羅尼あぐ声激しきや花吹雪

小川 明宏

散る桜仁王の太き足もとへ

有馬 洋子

母と見し万朶のさくらありありと

山名 恒子

鳩舞ひおりて花の塵ふつと輪に

山西 雅子

本殿の大屋根越えて舞ふ桜

小林 休魚

不意に風日蓮さまへ花ふぶき

小林 黎子

石 嶌 岳 選

特選

一山の桜に鳥語あふらしめ  
花屑や出店の椅子の畳まれし  
緑摘む庭師の足は枝跨ぎ

入選

百段を上りきつたる桜かな  
相輪に天女のごとき落花かな  
ひかりつつ光の中をちるさくら  
夫と子は池上生まれ石鱖玉  
どこからも塔見えてゐる花の雲  
春陰や龍子未完の龍うねる  
日輪は雲の中なる桜かな  
裳階まで吹き上げられし桜かな  
本門寺けふ清明の風まとふ  
咲き満ちてあしたは風となる桜  
貝塚の跡にふり込む飛花落花  
法華経の木魚ひびくや花の寺  
花びらのひかりを撒きて大伽藍  
花ふぶき門の仁王にらまるる  
清明や天にまつすぐ五重塔  
陀羅尼あぐ声激しきや花吹雪  
楠若葉仁王の像の眼の光り  
行春や朱のさびさびと塔五重  
総門に深き一礼花の昼  
大堂の龍は駘蕩吐きにけり

青木百々子

藤川三枝子

滝本 史代

入部 美樹

渡邊 文雄

清水ゆみ子

菅原 明子

中島真由美

小西 弘子

入部 美樹

臺目 良雨

上田 玲子

川島ちえり

西尾 智美

河村里江子

小池とも子

勝山智恵子

小川 明宏

小川 明宏

前田三枝子

堤 京子

大竹多可志

竹田 絹子

鎌 田 俊 選

特選

参道へ清明の花舗香をこぼす  
相輪に天女のごとき落花かな  
落花しきり黄泉の入口とはこんな

入選

しづけさは花にはじまる女坂  
朝桜独り遠き日思ふとき  
花びらのひかりを撒きて大伽藍  
蜥蜴出て光まみれの女坂  
舞ひ降りて小鷺の崩す花筏

小西 弘子

渡邊 文雄

菅原 明子

森宮 保子

堀川 利枝

小池とも子

西尾 智美

小森 泰子

発語遅き児の瞳のチューリップ  
亀鳴くや道中記なき黄泉の国  
くろぐろと五重塔や燕来る  
春風や堂再建の槌の音  
ひかりつつ光の中をちるさくら  
蒼天の五重の塔や緑立つ  
花人となりてひと日を遊びけり  
若葉風大本山をいだきたる  
遠足子石階かぞへ登りけり  
「よう来た」と日蓮様や花明り  
飛花落花犬をなだめて歩き出す  
清明や大扁額の紺地澄み  
花の風乳足りし嬰の笑まひかな  
春昼の石階空に届きをり

加藤 秀子  
加藤 秀子  
杉田とみ子  
清水ゆみ子  
清水ゆみ子  
塩谷 豊  
山田 和子  
佐瀬はま代  
濱田 ふゆ  
杉本 光祥  
福田由美子  
布施 政子  
緒口 うた  
阿部島春美

## 徳田 千鶴子選

### 特選

清明や未完の龍の氣負ひ立つ  
咲き満ちてあしたは風となる桜

広海あぐり

川島ちえり

若葉風声明変はる鐘一打

工藤 文子

### 入選

しづけさは花にはじまる女坂

森宮 保子

絶筆の天井画に龍冴え返る

相川 幸代

いつの間に花は大樹に無縁墓

荒井 佳子

合掌にかへす会釈や春の寺

町山 公孝

清明や靡くがごとき仁王の裳

有馬 洋子

花競ふ仁左衛門丈墓所あたり

山森 伸子

相輪に天女のごとき落花かな

渡邊 文雄

花の下香炉を背負ふ邪氣の顔

中西 恒弘

急磴の花影を踏む本門寺

山本 欣子

行春や朱のさびさびと塔五重

堤 京子

きざはしは春愁の斜度茶毘所跡

須賀ゆかり

仁王像睨むこの世の花吹雪

鈴木 敦子

どこからも塔見えてゐる花の雲

中島真由美

一山の桜に鳥語あふれしめ

青木百々子

木の芽晴露伴に二つ妻の墓

下谷内綾子

清明の自づと光る九輪かな

須賀ゆかり

黒染の総門くぐる桜東風  
新しき卒塔婆に降るる桜蕊  
桜蕊降る己が罪状数ふれば  
声明の若き力や龍天に

清水 葉子  
遠野 玖柚  
工藤 文子  
阿部島春美

## 森岡 正作選

### 特選

くろぐろと五重塔や燕来る  
遠足子石階かぞへ登りけり  
散る桜仁王の大き足もとへ

杉田とみ子  
濱田 ふゆ  
有馬 洋子

### 入選

飛花落花お地藏さまは帚持ち  
画竜点睛龍子の龍のうらけし  
花人となりてひと日を本門寺  
階段のまた階段や飛花落花  
清正の磴は断崖花は葉に  
春風や堂再建の槌の音  
掌の花ひとひらに日の温み  
年々の記憶に咲きて桜かな  
蝶の昼妙法蓮華経朗々たり  
どこからも塔見えてゐる花の雲  
一山の桜に鳥語あふれしめ  
筏にもならぬ落花の流れかな  
木の芽晴露伴に二つ妻の墓  
囀りや眼差しやはき力道山  
日蓮様にいたたく今日の花疲  
手に掬ふ桜も風に散りにけり  
力道山の墓誌の余白や朝桜  
側室の欠けし層塔花吹雪  
声明の若き力や龍天に  
春昼の石階空に届きをり

木村 茜  
橘川 寿子  
七田 文子  
圃 喜江  
本池美佐子  
清水ゆみ子  
大山知佳歩  
水谷由美子  
遠山 へき  
中島真由美  
青木百々子  
谷岡 健彦  
下谷内綾子  
藤野 武彦  
杉本 光祥  
飯田マユミ  
相川 幸代  
宮澤美智子  
阿部島春美  
阿部島春美